

Vol.2

不整脈

[牧田総合病院広報誌]



Vol.2 不整脈

不整脈は、動悸やめまい、ふらつき、息切れ、失神など、多彩な症状をきたす疾患です。経過観察でよいものから緊急治療が必要なものまで様々なケースがあり、正確な診断をすることが求められます。早期に発見できれば根治の可能性も高い疾患ではあるものの、頻脈や徐脈などの症状は一過性に出現することもあり、なかなか診断出来ずに突然失神してしまうこともあります。牧田総合病院は、そのようなケースを少しでも減らし、根治につなげたいという想いから 2021 年 4 月、「不整脈・失神センター」を開設しました。当センターには、3Dマッピングシステムや血管撮影装置など最先端の機器を備え、被爆を最小限に抑えた低侵襲カテーテル手術を実現しました。患者さんの体にできるだけ負担をかけない状況で、カテーテルアブレーション手術やペースメーカー植え込み手術などが可能になっています。さらには原因不明の動悸や失神患者さんの診断のために、3年間観察可能な皮下挿入型心電図モニター植え込みや2週間観察可能で入浴もできる小型の心電図モニターも使用可能です。また、不整脈は脳梗塞や心不全とも密接に関係しており、「脳心連携」というモットーのもと、脳神経外科とも連携を図り、脳梗塞や心不全の予防や治療についても積極的に行っています。

2021.04

不整脈・失神センター開設

不整脈センターを有する病院は全国に多くありますが、失神センターを有している病院はほとんどありません。しかし不整脈と失神には深い関係があり我々はそれらを同時に診られるセンターを開設しました。患者さんの異変や兆候を見逃さず、早期診断・早期治療につなげたいという想いを形にしました。

当センターでは、長年この分野の第一線で実績を積み、アメリカのカリフォルニア大学で最先端の技術を習得した医師らが手術・治療に当たっています。また、当センターは「日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設」にも認定されています。地域の方々が不安を抱えた時、すぐに力になれるよう、24時間体制での対応が可能です。



低侵襲・低被爆

心臓カテーテルアブレーション

アブレーション治療は頻脈性不整脈に対する治療で、2021年には日本で約10万人施行されており、年々増加しています。特に心房細動に対する症例数が増加しており、当院の不整脈・失神センターでは2022年4月開設後約120件アブレーション治療をしています。対象疾患は心房細動や心室性不整脈、発作性上室性頻拍が中心で、心室性不整脈は河村医師が担当し、心房細動は伊藤医師が担当することが多く、安全かつ確実に施行します。

安全かつ確実

デバイス治療診断/植え込み術

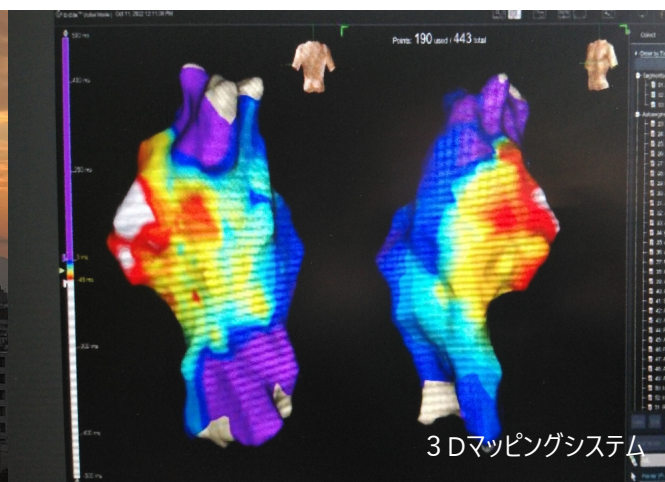
デバイス治療として、徐脈性不整脈（完全房室ブロック、洞不全症候群等）に対してペースメーカー植え込み術が施行されており、2021年には日本で約4万人の新規植え込み術が施行されています。当院では血管エコーを使用して安全かつ確実に手術可能です。診断としては、原因不明の失神や、脳梗塞症例に対して皮下植え込み型心電図モニターを挿入したり、2週間ホルター心電図を使用して不整脈や失神を的確に診断しています。

2021年4月、不整脈・失神センター開設後

心臓カテーテルアブレーション	115
ペースメーカー植え込み術	32
長時間心電図モニター（皮下挿入型心電図モニター、2週間心電図モニター）	86



9階病棟からの夕景



3Dマッピングシステム



カテーテルアブレーション 実際の様子



Next

Interview

脳心連携を含めた トータルマネジメントを実現

牧田総合病院 循環器内科部長、不整脈・失神センター部長/河村 光晴

- ・医学博士取得 昭和大学 (2006年) ・日本内科学会総合内科専門医・指導医 ・日本循環器学会専門医
- ・日本不整脈心電学会専門医・評議員 ・日本不整脈心電学会ICD/CRT-植込み術 研修修了
- ・皮下植え込み型除細動器植込み術 指導医 ・リードレスペースメーカー植込み術 認定医
- ・左心耳閉鎖術 認定医 ・身体障害者福祉法第15条指定医

不整脈の治療でまず検討されるのは薬物療法です。しかし、それだけでは症状を抑制するに止まり、根治にはつながりません。牧田総合病院の不整脈・失神センターでは、完全に治していくことを目標に、頻脈性不整脈に対してはカテーテルアブレーション手術を、また徐脈性不整脈に対しては、必要であればペースメーカーを植え込んだ治療を行っています。そして、治療に際し忘れてはならないのは、不整脈が脳梗塞や心不全と密接に関連しているということです。特に心房細動という不整脈では、通常の4、5倍も脳梗塞を起こしやすいというデータがあります。

そこで我々は、脳神経外科との「脳心連携」でチームを組み、心房細動の治療にプラスして、脳梗塞の予防を含めたトータルマネジメント的な治療を行っています。また、患者さんのメンタル面のケアも大事にしています。不整脈は心臓がドキドキする分、不安になりやすい傾向があります。患者さんと向き合う時はあまり不安がらせないように気をつ

け、メンタル面も含めたサポートをしていきたいというのが私の考えです。私はこれまで、昭和大学病院で年間300件のカテーテルアブレーション手術に携わり、また伊藤医師と共に2年間、アメリカ・カリフォルニア大学の循環器専門病院で最先端医療を学ぶことができました。それらの経験や技術を活かし、この不整脈・失神センターを城南エリア

でトップレベルのセンターに育てていきたいと考えています。

不整脈は専門性が高く、診断をつける際に悩まれる開業医の先生方もいらっしゃると思います。そういった場合でも遠慮せずにご相談、ご紹介ください。こちらで診断をつけ、必要な手術や治療を行った後で、患者さんにはまたご紹介元に戻っていただく方針です。心房細動などは、早ければ早いほどカテーテルアブレーション手術の成功率も高く、心臓への負担も少なく済みます。もし何か少しでも気になることがある場合は、どうか早めに一度ご紹介ください。地域の開業医の先生方より強い連携を図っていくことで、患者さんたちの命と健康を守れば幸いです。



不整脈・失神における 早期診断・早期治療をモットーに

牧田総合病院 不整脈・失神センター医長/伊藤 啓之

- ・医学博士取得 昭和大学 ・日本内科学会総合内科専門医・指導医 ・日本循環器学会専門医
- ・日本不整脈心電学会専門医・評議員 ・日本不整脈心電学会ICD/CRT-植込み術 研修修了
- ・皮下植込み型除細動器植込み術 指導医 ・リードレスペースメーカー植込み術 認定医

不整脈の手術は、一昔前に比べると成功率も安全性も格段に上がっています。その鍵を握るのが、当院でも使用している3Dマッピングシステムです。このシステムは事前にCTを撮り、それと同期させて画像を作成でき、ここ最近のシステムではカテーテルを動かしたその場で、瞬時にリアルな画像を抽出することが可能になりました。例えば私たちが見たい心臓の部位や欲しい情報を、より正確に、ピンポイントに得ることができます。カテーテル手術では鼠径部の大腿動脈や静脈からカテーテルを入れ、それを心臓まで持っていき、カテーテル先端から

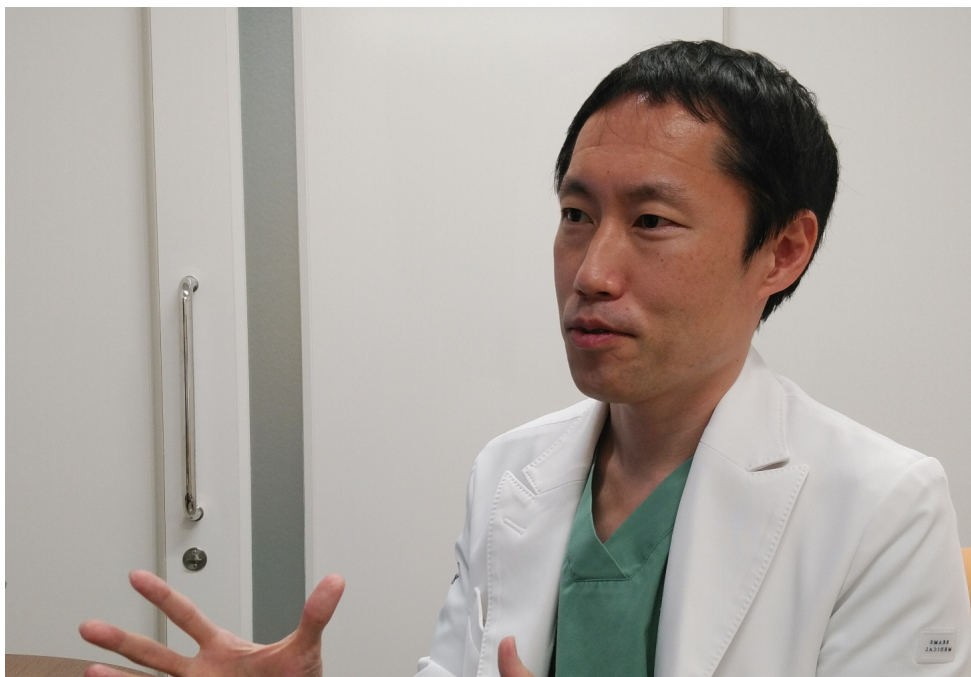
熱を出して不整脈の通路を焼くというのが一般的な治療になります。胸を切るような手術ではないため、傷もほとんどなく、基本的には意識もある状態で行われます。開腹手術では傷口を診る期間や、内容によってはリハビリに時間がかかることもありますが、この手術では安静時間もほぼ手術当日のみであり、入院も2泊3日程度で済み、術後の状態によっては翌日から仕事をすることも可能です。最初は手術に身構えていた患者さんも、思っていたより低侵襲の手術であり、いい意味で驚かれます。

薬は効果的な治療のひとつではありますが、やはり一時的に症状を抑えることはできても、半年後1年後にまた再発したり、薬の副作用で苦しまれる方がいらっしゃるのも事実です。

私たちが目指すのは、まず患者さんから不整脈の症状を取り除くことです。それが難しくであれば薬という手段を考える、という二段構えで治療に当たっています。

不整脈というのは症状の出方に波があり、「まだ大丈夫だろう」「たまたまかもしれない」と様子見をしているうちに悪化してしまうことが多い疾患です。そのため、心臓が本

格的なダメージを受ける前に、早い段階で治療方針のジャッジをすることも私たちの大切な役目であると考えています。そのためには、開業医の先生方との密なコミュニケーションがとても重要になってきます。まだ間に合うと言えるようなタイミングで最適な治療ができるよう、どんな小さなことでも我々にご相談いただきたいと思います。



HeartNote × Makita

心不全での再入院予防のため 「ハートノート」を導入

不整脈と心不全はとても関連があり、不整脈・失神センターでは心不全治療に対しても力を入れております。当院では、2020年に発足した城南地区心不全連携の会(JHeC)に参加しております。

この会は、ハートノートという自己管理ノートを患者さんや家族に記入していただき、心不全での再入院を減らすための、自己管理ツールとしての普及を促進しているものです。

心不全についての知識がわかりやすく解説されている他、患者さんが毎日の体重や血圧、脈拍やむくみの状態などを記入し、点数をつけることで健康状態を把握できます。それにより受診の目安にできる仕組みになっています。心不全の再発、再入院を防ぐために大切なのは、まず患者さんが自分の状態を正しく知ることです。そして、その正しい情報を周囲の人々が共有することで

す。このノートをつけることにより、患者さんが現在どのような状態にあるのか、薬の飲み忘れがないか、どんな治療を受けているのかなどを、家族やクリニック、訪問看護や療養施設、デイサービスなどですぐに確認でき、それにより素早い連携を図ることができます。

牧田総合病院では、2020年10月に医師、看護部、リハビリテーション部、薬剤部、栄養部と患者サポート部（医療連携等）でチームを結成しました。入院中に患者さんの治療方針について多職種で連携を図り、また再入院を防ぐための取り組みとして、このノートを導入しました。将来的には、城南地区全域でこの取り組みを広め、心不全の患者さんが少しでも再入院を減らせるよう、関連各所と積極的にネットワークを構築していきたいと考えています。



すべての人に安心を

急性期医療

牧田総合病院

回復期・慢性期
在宅医療

介護・福祉

介護老人保健施設

大森平和の里

牧田訪問看護ステーション
牧田介護サービスセンター
地域包括支援センター

牧田
リハビリテーション
病院

仁医会グループ
Jin Medical Group

予防医療

人間ドック検診センター
健診プラザOmori

すぐそば医療

大森牧田クリニック

Doceo



Download on the
App Store

GET IT ON
Google Play



準備中

当院所属医師が
アプリで質問に
回答します

病院を変える、地域を変える

Next

Vol.3 変形性関節症



〒144-8501 東京都大田区西蒲田 8 丁目 2 0 - 1

TEL (代表) : 03-6428-7500

TEL (医療連携室直通) : 03-6428-7510 FAX (医療連携室直接) : 03-6428-7511

月曜日～金曜日 9:00～17:00 (土・日・祝日を除く)

※外来診療表はQRコードからご確認頂けます

